



# 復帰 50 周年記念事業

～沖縄の発展のあゆみや将来の可能性、見て、知って、考える機会としよう～



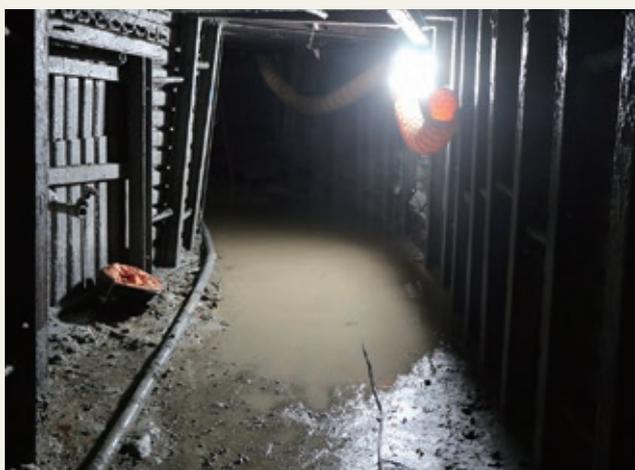
## 第32軍司令部壕の保存・公開に向けて

第32軍司令部壕は、住民を巻き込んだ熾烈な沖縄戦の軍事的中枢施設であり、戦争の不条理さ、残酷さとともに、平和の尊さを伝える上で、重要な戦争遺跡です。

戦後77年余りが経過し戦争を知らない世代が大半を占める中、県民から同壕の保存・公開を求める声が高まっており、県では壕内の調査事業や有識者による検討委員会の開催など、保存・公開に向けた取り組みを行っています。

### 第32軍司令部壕とは？

1944年(昭和19年)3月、南西諸島の防衛を目的に大日本帝国陸軍第32軍が創設されました。司令部が首里に置かれ、首里城地下(現:那覇市首里当蔵町～金城町地内)に大規模な壕が構築されました。翌年の4月に連合軍が沖縄本島へ上陸、5月下旬に首里が陥落し、第32軍司令部は南部へ撤退しました。6月23日未明、牛島満軍司令官と長勇参謀長が自決し、軍としての組織的抵抗が終結したとされています。(沖縄県では、条例で6月23日を沖縄戦等の戦没者を追悼する「慰霊の日」と定めています。)



坑道内の様子

### 壕の中はどうなっているの？

壕は直線距離にして約375m、壕の総延長は約1,000mと推定されています。坑口(壕の出入口)は全部で5か所とされていますが、埋没や崩落があり、位置や状態が確認できているのは第5坑口の1か所のみとなっています。

坑道(壕の中)は天井や壁面の崩落等により、安全面に課題があることから、現在、中に入ることはできない状態です。また、土砂等で埋もれて塞がっている区間については、未発掘(未調査)となっています。

### 令和4年度の取り組み

県では、第32軍司令部壕の未発掘区間等の調査を実施するとともに、県の取組等の情報発信に取り組んでいるところです。

また、県が設置した有識者委員会(第32軍司令部壕保存・公開検討委員会)から知事へ提言をいただくことになっており、それを受けて第32軍司令部壕の保存・公開に向けた県の取組をさらに進めることとしています。



未発掘区間調査(ボーリング調査)

問い合わせ

女性力・平和推進課 電話:098-866-2500 FAX:098-866-2589



はたちの献血キャンペーン



献血バス運行スケジュール